

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 27 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	瀧 雄渡


<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本国、新潟県
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 7 月 17 日 ~ 平成 30 年 7 月 20 日 ( 4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター特任准教授、杉山 茂先生
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、新潟県妙高高原の京都大学笹ヶ峰ヒュッテに滞在し、山歩きを中心としたフィールドワーク技術を学んだ。 7月17日：ヒュッテ周辺を散策し、植物や昆虫の観察を行った。 7月18日：藪漕ぎをしながら涸沢への踏査を行い、地図やコンパス、植物などの目印を使ってルートを見つけ、下山した。 7月19日：早朝に出発し、道中高山植物や地質の説明を受けながら、日帰りで火打山登山を行った。高地では独特の植生が見られ、山を登っていくにつれて植生が変わっていくのがわかった。美しい環境の中で馴染みのない植物を観察するのは、非常に興味深い体験であった。 7月20日：テントの活用方法、ロープワーク、ドローンの操縦方法について学んだ。また、地獄谷にてニホンザルの観察を行った。 この機会を得て、フィールドワークに必要な登山技術、サバイバル技術を学んだ。また、安全対策を怠らないということの大切さを改めて体感することができた。 この経験は、サンプリングなどのためにフィールドに出る際に、大きな助けとなるだろう。

図 1. 火打山



図 2. 地獄谷のニホンザルの子供

6. その他 (特記事項など)